— 記者会見資料５ —
平成 31（2019）年２月６日
防災・原子力課
TEL 21-2323

新潟県原子力災害広域避難計画案の公表を受けて

１月 24 日（木曜日）に新潟県から「県原子力災害広域避難計画（案）」が示されました。県からの意見照会を受けて、柏崎市では関係する各課において計画案の確認作業を進めています。

また、１月 28 日（月曜日）に実施した「避難経路の確認」により、あらためて明らかになった降積雪期・夜間の住民避難に係る課題について、今後、県及び国と共有し、連携して課題の解決に取り組んでいきます。

「避難経路の確認」を終えて（所見）

柏崎市

○　除雪された路肩の雪により道幅が狭くなっている箇所や、山の斜面から雪が道路に崩れ落ちていた箇所が見受けられた。また、路面の積雪によるスリップや降雪による視界不良など、非常に走行しづらい状況であった。
○　降積雪時における夜間の乗用車による避難は、除雪状況や雪崩などによる交通障害や交通事故の発生など、二次災害につながる可能性が高く、避難することでかえって危険をともなう状況があり得る。
○　無理に避難せず、気象状況の改善やより安全な避難手段・方法の確保などがされるまでは、屋内退避を継続することも考慮し、避難計画の見直しを検討する必要がある。

原子力規制庁柏崎刈羽原子力規制事務所

○　現地確認を通じて、計画を機械的に実行（行動）に移すことは危険であり、事前の情報収集の重要性を感じた。特に、避難経路の情報収集を綿密に計画する必要性がある。
○　避難計画の実行の可否は、当日の避難経路等の状況、気象、プラント状況等を踏まえて、合同対策協議会において「防護措置の実施方針」として決定されることから、避難計画等の記載には予備経路の設定、即時避難よりは屋内退避等の選択の幅を保持すべきと感じた。
○　今後、避難計画を実効性あるものに深化させるため、今回のような視点を確立した検証や、住民参加型の実動訓練等を通じ、問題点の抽出・改善を図るべきと感じた。

新潟県柏崎地域振興局

○　この度、冬季降積雪時の夜間に避難経路を走行してみて、改めて降雪時の状況を確認することができた。
○　地域振興局としては、引き続き管内の道路整備や維持管理・防雪対策等により、冬季間も含めた安全安心な暮らしの確保に努めていく。

柏崎市の自動車運転手の感想

○　途中、道路の積雪が増えたり、雪質が湿っていたりしたため、運転しづらかった。
○　夜間は視界が悪く、どこを走っているかが分かりづらい。
○　常にスリップやスタックの不安を抱えながらの運転だった。